

インマヌエル中目黒キリスト教会
聖日礼拝2007.7.22.

メッセージ

ローマ書連講39

『敵を愛する』

ローマ人への手紙12章14-21節

竿代照夫牧師

聖書朗読

新約聖書

ローマ人への手紙12章14～21節

12:14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。

12:15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。

12:16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思っははいけません。

12:17 だれに対してでも、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。

12:18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。

12:19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」

12:20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渴いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。

12:21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

ローマ書連講39

メッセージ

『敵を愛する』

ローマ人への手紙12章14～21節

竿代照夫牧師

主テキスト：「あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。」
(ローマ12：14)

はじめに：愛敵に関して、5つの禁止
と5つの勧め

A. すべての人に対して(17, 18節)

1. 悪に悪を報いるな

2. 善と平和を求めよ

- ・黄金律（マタイ7:12）との連関
- ・自分から敵は作らない
- ・しかし「敵対的な」人間の存在は不可避
- ・そうではあっても、他人をサタン呼ばわりするのはいけない

B. 迫害者に対して（14節）

1. 呪うな

2. むしろ、祝福せよ

- ・パウロの経験から

- ・祝福する理由：

①自分が何をしているか分からないから（人には言えないトラウマが背景にある場合も）

②虐める人も、神の愛の対象だから
(2ペテロ3:9)

<メティカフ氏の例>

C. 虐める人に対して（19節）

1. 自分で復讐をするな

2. 神の裁きに委ねよ

- ・「神の怒りに任せる」とは、現在の、将来的に、神が報いの法則が働くのをみまもること

- ・裁きは神の主権に属する（申命記 32:35）

- ・神は確実に、正確に、公正に裁きを行われる（ナホム1:2）

- ・私達が早まって裁くことは、
神の主権を犯すことになる

<佐木隆三氏の「復讐するは我にあり」>

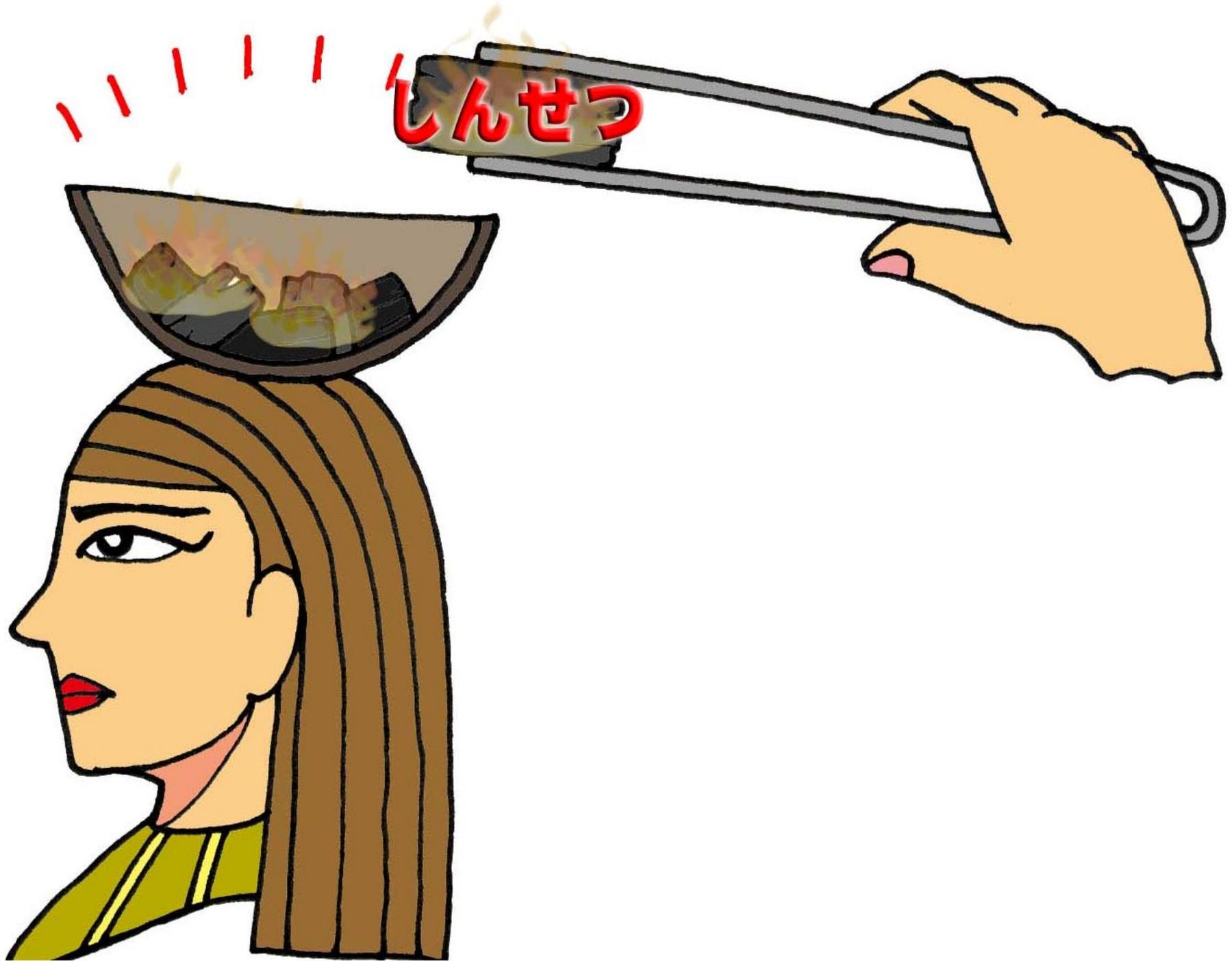
D. 敵の窮状に際して（20節）

1. ほっておかない。

2. むしろ、親切を施せ

・そうすることによって、彼の頭に燃える炭火を積む（箴言 25:21-22）

<アーミッシュの小学校での乱射事件とその後>



E. 悪に対面して（21節）

1. 悪に負けるな

2. 善をもって悪に勝て
＜ヨセフの例＞

終わりに：
善をもって悪に打ち勝つことを可能
とし給う主を信じよう